評価結果を踏まえた今後の改善方策

１　調査の実施方法、対象者数

本調査は google forms を使用し、オンラインアンケート形式でおこない、【１全くできていない　２あまりできていない　３ややできている　４できている】の４段階で回答した。実施期間は 2024 年 12 月 16 日から 12 月 20 日の５日間で、本校職員６５名が回答した。

２　結果の概要と考察

平均評価は４点満点中 3.4（R５年度 3.3）であった。以下、特徴的な項目をあげ、考察する。

2.1　昨年度と比較し評価が大きく上がった項目

「⑥のびのびと自己表現をし、他者と協働し、安心して学べる場の保証」3.4（R５年度 2.9）

昨年度よりも全校集会の実施回数を増やし、活発に活動できた。行事報告やなかよし会（児童生徒会）によるレクリエーションを通して他学部と関わる機会を持った。校内放送を録音放送にすることで活動内容を維持しつつ、児童生徒や教師の負担を減らすことができた。来年度以降も児童生徒に役割を持たせ、主体的に取り組ませることで、充実感が味わえるように支援していく。

2.2　比較的評価が高かった項目

「③障害特性（アレルギーや装置器具含む）を踏まえた適切な対応とヒヤリハット事案の共有」3.6

４月当初に人工呼吸器、エピペンの研修をおこなった。新年度早々に、介助員やスクールバス運転手を含む関係職員全体で理解を深め、対応方法を学ぶ機会を設定できた。ヒヤリハット事例については、関係部署で回覧し、確実に情報共有ができるようにした。また、職員朝礼等で全職員が情報を共有した。

学校生活の中で障害特性に応じた怪我や事故等を未然に防ぎつつ、より適切に対応できるスキルを身につけるために、保健部オリエンテーション等の研修を計画・実施する。

2.3　比較的評価が低かった項目

「㉕教職員の勤務時間の適正化」3.0

毎週金曜日に定時退勤日、月に１度完全消灯日を設定した。退勤チェックシートを活用し、職員の意識改革を図った。行事月には変動があるものの、少しずつ改善の傾向がみられた。しかし、職員間の情報共有の必要性もあり、合間を縫って会議や研修を入れている状態がある。職員の意識改革だけでは難しい面がある。行事や会議等の持ち方の検討も随時進めていく。

３　学校関係者評価

本校の「学校評価」について、適切な自己評価がおこなえているかどうかを、学校評議員により【A 適切な評価である　B まずまず適切な評価である　C やや不適切な評価である　D 不適切な評価である】の４段階で評価を受けた。すべての項目において「適切な評価である」または「まずまず適切な評価である」という評価が得られた。また、学校評議員から以下のような助言をいただいた。

・今年度始まった長寿命化工事が来年度も続く。子どもの特性上、突発的な行動をとる場合がある。ビス一つでも危険が生じる可能性がある。

・「北はりまブログ」で日々の学習や交流の様子を拝見している。各学部共に、グランドデザインにある通り、安全・安心な学校、地域に開かれた信頼ある学校を目指しての日々の取組に感謝申し上げる。

・人権教育にも力を入れているとのこと、さらに豊かな人間性を養う教育に努力されるよう望んでいる。

４　来年度へ向けて

今年度は長寿命化工事のために実施場所や保護者用駐車場が制限されることもあり、運動会を体育的参観日、学習発表会を文化的参観日とし、学部ごとの平日開催とした。熱中症対策が取りやすかったこと、児童生徒と保護者の距離の近い行事が行えたことに加え、職員の業務改善につながった。このようなメリットがあった一方で、行事の規模が小さくなったことにより、他学部の様子が分からない、発表の場が減ってしまった等、保護者の方々からは残念に思うという意見もあがった。来年度は学校外の施設利用を検討する等、安全性を担保しつつ、保護者の方々や地域の方々にも参加していただけるよう、更に工夫していく。

児童生徒の将来を見据え、社会とのつながりを築いていくためにも地域との交流・協働のさらなる推進が期待される。また、これらの取組が児童生徒にとって主体的で、自己存在感を育む活動となることを常に意識し、教育活動をおこなっていく。